

会議結果報告書

1. 会議名 平成30年度 第9回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 平成31年2月15日（金） 9：30～11：40
3. 場 所 印西市役所25会議室
4. 出席委員：岩井会長、小山委員、白川委員、根本委員、橋本委員、平林委員、福井委員、松崎委員

事務局：海老原（環境保全課）

5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
 - ・会議次第、会議席次表
 - ・岩井委員発表資料、小山委員発表資料
 - ・市民会議での検討事項（グループ討議会議録）

7. 内 容

（1）開 会

（2）議事

①岩井会長の発表（海洋プラスチック汚染問題）

資料に沿って説明。

岩井会長 浜辺にプラスチックごみを見に行ったが、紫外線や波の影響で小さくなったプラスチック片を確認した。

中国では1年間に350万トンものプラスチックが海に流れ出ている。

マイクロプラスチックの影響でサンゴが絶滅する可能性もある。

Q 海に流出する量はどのように算出しているのか？

A 国連が発表している調査値によるが推定値である。

海洋プラスチック憲章に日本とアメリカは署名しておらず、世界から批判されている。日本はプラスチックに依存しており、大幅な削減は難しいと判断したため署名には至らなかった。

日本の取組として、2月8日の新聞に環境省内の会議や食堂でのプラスチック製品の使用は禁止することを発表している。

残念ながら印西市ではこの問題について動きが見られない。

委 員 プラスチックの渦が世界中の海洋にたくさんできている。

汚染はプランクトン→エビ、カニ→魚→人間へと影響が拡大していく。

岩井会長 今後、中国は廃プラスチックを輸入しないと言っている。

日本は中国に廃プラスチックを輸出していたが、今後は日本国内でのリサイクルを推進するべき。

市内の回収業者も現在はプラスチックを集めてもお金にならないと言っている。

分別せずに燃やすごみに出した方が良いとの意見も出ている。実際、プラスチ

ックを分別しない自治体もある。

委員 ペレットにして燃料として使用するべき。

岩井会長 プラスチックを燃やす場合は化石燃料になるので、一概に良いとは言えない。

委員 原発も燃料の廃棄問題が解決しないまま使い続けている。このような問題を伝える教育を充実させるべき。

若い世代で関心がある人はプラスチック製ではないマイストローを持ち歩いている人もいる。

植物由来で分解性の高い環境に優しいプラスチックを普及させるべき。現在は単価が高く普及していないが、使用量が増えれば価格は下がる。

ファミレスのドリンクバーでストローの提供がなくなっていた。

固形石けんを使用し、プラスチックボトルを使用しない。

消費者がプラスチックの使用を抑える必要がある。

この問題を放置すれば今後、何世代か後に影響がでる可能性もある。

問題を解決するために、もっと知恵を出し合う必要がある。

小山委員の発表（グリーンインフラを活かして、将来も発展する印西に）

資料に沿って説明。

小山委員 グリーンインフラとは自然の機能を活用した土地利用のことで、例えば、防災力の強化や治水事業として、水田を整備すること等がこれに該当する。

グリーンインフラを中心とした街づくりを掲げている自治体もある。

浸透舗装や自然の地形を生かした開発を推進する必要がある。

グリーンインフラはSDGsでも推奨されている。

印西市は7年連続住みよさランキング1位となっているが、自然については後退している。守らなければならない場所がニュータウンに潰されている。

グリーンインフラに沿った水循環の整備を、次期環境基本計画に盛り込んで欲しい。

別所谷津公園の付近は湧水量が豊富だったが、埋立てしたことにより地盤の緩い部分がある。開発者は水の流れを理解していなかったように思える。

Q 環境アセスメントでは問題にならなかったのか？

A そこまで理解していたとは思えない。

委員 滝野7丁目付近も埋立てした場所である。

Q グリーンインフラ事業の推進を目的とした補助金はあるのか？

A 水田の治水事業等に補助金がある。

委員 開発の進行によりカエルが減り、その影響で蛇も減っている。

小山委員 ニュータウン地区の新しい公園は設置基準を満たしたただけのものであり、自然を生かした公園の整備を今後は推進するべき。

②市民会議での検討事項について

1. 「放置竹林の検討」

もともと、放置竹林においてシラサギの糞害が発生してる地区があったことが検討事項として提案をしたきっかけだった。

放置竹林の整備はイノシシ対策や里山景観の保全にも繋がる。

整備方法や竹材利用について検討してきた。

補助金の活用を提案したい。

シルバー人材センターの活用も検討したが、危険が伴う作業には不向きであるため検討事項から除外した。

ハウス農家の燃料として竹材利用を提案したい。

ペレットに加工し、燃料として使用する。事業化に成功した例もある。

市が所有している竹林に伐採した竹が放置されている。

市 3月中旬に竹の処分を予定している。

2. 「里山保全の検討」

自然探訪のホタル観察を拡大し、夜のホタル観察だけではなく、昼間の生息環境を見てもらい、人の手により守らなければホタルが生息できないことを理解してもらう。また、保全活動の一環として、昼間のごみ拾いと夜の観察会を同時開催することを提案したい。

3. 「SDG s の検討」

レポートおよび資料（案）を作成し、内容の検討をしている。

SDG s の説明として、17 の目標、日本の評価、未達成の目標、日本の対応、市の対応の順にまとめる予定。

今年の市民アカデミーでの発表を目標にしている。

SDG s は幅が広く、すべてを取り上げるのは難しいので、ポイントを絞ってまとめる予定。

③その他

今回の会議（3月15日開催予定）の会議室は204会議室で開催するので、間違いのないようお願いします。

平成30年度 第9回 印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成31年3月15日

委員 橋本 千代子

委員 根本 巖